

平成 2 1 年度病害虫発生予察注意報第 3 号

平成 2 1 年 8 月 3 日
鳥取県病害虫防除所

注意報の概要

穂いもちの伝染源となる葉いもちの発生が中間地～山間地で増加しています。向こう 1 ヶ月の気象予報によると、晴れの日が少なく気温も低いと予想されており、葉いもち発生拡大とともに、穂いもちの発生が懸念されます。穂いもちの被害を防ぐために、穂ばらみ期及び穂揃い期の防除を徹底しましょう。

病害虫名：イネいもち病（穂いもち）

- 1 対象作物 イネ
- 2 発生地域 中間地～山間地
- 3 発生時期 やや遅い
- 4 発生量 やや多い

5 注意報発令の根拠

- (1) 7月31日現在、県全体の葉いもち発生ほ場率は13.2%（平年：34.7%）と平年よりやや少なく、広域発生には至っていない。しかし、中間地～山間地では、一部で多発生ほ場が認められており、今後の発生拡大が予想される。
- (2) 本県では、本病に弱い「ひとめぼれ」、「コシヒカリ」の栽培面積が約90%を占めている。また、イネの生育は軟弱気味であり、本病に罹病しやすい状態となっている。
- (3) プラスタム（いもち病発生予察システム）による葉いもちの感染好適日、準感染好適日が7月21日以降、断続的にみられており（表1）、葉いもちの発生はさらに増加するものと見込まれる。
- (4) イネの出穂期は、「ひとめぼれ」、「コシヒカリ」ともにやや遅いと予想されていることから、穂いもちの発生時期はやや遅いと見込まれる。
- (5) 梅雨明けは平年より遅れており、7月31日発表の向こう1ヶ月の気象予報によると、平年に比べて晴れの日が少なく、1週目の気温も低いと予想されている。したがって、今後もしもいもち病の発生しやすい気象条件が続くと予想され、穂いもちの多発生が懸念される。
- (6) 育苗箱施用剤の効果が切れる時期となっている。

6 防除上注意すべき事項

- (1) 葉いもちは穂いもちの伝染源となるので、葉いもちの発生が多い場合には、表2に示す治療剤、予防・治療剤あるいはこれらを含む混合剤を用いて防除を行う。
- (2) 穂いもちは発生してからの防除は困難であるため、穂ばらみ期及び穂揃い期の2回、粉剤、水和剤等による防除を徹底する。さらに、葉いもちの発生が多い場合は、傾穂期の防除を追加する。なお、降雨が続く場合は、雨の止み間をみて防除を行う。この場合、散布後約3時間経過すれば、降雨の影響は少ない。
- (3) 防除薬剤は表2を参考とする。また、農薬の使用基準を遵守するとともに、使用上の注意事項を守り、散布作業者の安全の確保に努める。

表1 プラスタムによる感染好適日の出現状況

日付	鳥取	岩井	青谷	智頭	倉吉	米子	下市	境	茶屋
7/21					-				
7/22	-	-		-	-	-		-	
7/23	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/24	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/25	-			-	-	-			-
7/26		-		-	-	-	-	-	-
7/27	-	-	-		-	-	-	-	-
7/28	-	-	-	-		-	-	-	-
7/29	-	-	-	-	-	-	-	-	
7/30	-		-		-	-		-	
7/31	-		-	-		-	-	-	-
8/1	-	-	-	-				-	
8/2			-	-		-	-	-	

注) 感染好適日、 準感染好適日

表2 いもち病防除粉剤又は水和剤（地上散布）

用途など	薬剤名
予防剤	ビーム粉剤DL、ビームゾル ラブサイド粉剤DL、ラブサイドフロアブル など
治療剤	カスミン粉剤DL、カスミン液剤 など
予防・治療剤	カスラブサイド粉剤DL、カスラブサイド粉剤3DL ノンプラス粉剤DL、ノンプラスフロアブル ブラシン粉剤DL、ブラシン水和剤、ブラシンフロアブル ラテラ粉剤DL など